

街路空間特性と犯罪発生構造との関連性

○金沢大学工学部 正会員 竹田 恵子
金沢大学工学部 正会員 川上 光彦

1. はじめに

近年、交通機能を重視した道路整備に加えて、様々な道路利用者の立場に立った、快適な道路環境整備が論じられてきている。本研究では、交通機能以外の快適な道路整備のための一要素として、犯罪の発生可能性を考えた。金沢市を対象として、道路など屋外空間における犯罪の発生実態を調べ、空間的環境要因から犯罪の発生構造について考察した。

都市の犯罪については、伊藤他¹⁾が都市の特性と犯罪発生との関連を、全国の個々の犯罪事例をもとに、都市特性との関連において分析している。その中で、都市犯罪を環境設計という視点で考える際のキー・ワードとして、「犯罪、および不審な事態に対する目撃・通報・救助の可能性の強さ」を意味する「監視性」と、「共同空間に対するなわばり意識や侵入を積極的に阻止する可能性の強さ」を意味する「領域性」を定義している。本研究においても、犯罪の発生構造についての分析には、この定義を用いている。

2. 調査方法

容易に入手できるデータとして、地方誌である北国新聞に掲載された記事を用いた。すなわち、1979年1月から1989年6月までの約10年間に、石川県内の屋外で発生した犯罪記事を全て収集し、その発生特性を調べ、さらにその中から金沢市内で発生した50件の事例について、現地調査を行い、街路環境特性について分析した。

3. 結果

県内で過去約10年間に屋外で発生した犯罪62件の内訳は、窃盗32件、暴行（暴行、婦女暴行、強制わいせつ、監禁、傷害）が16件、強盗（強盗、傷害窃盗、恐喝）が14件である。発生を月別にみると（図-1）、全体的に春の件数は最も少なく、夏から秋にかけての犯行が多い。季節的に気のゆるむ時期であるためと考えられる。また、時間帯別発生件数を見ると（図-2）、早朝の発生が最も少なく、次いで夕刻、逆に多いのは、退勤後の夕刻から夜にかけてと、日中である。特に強盗、暴行は夕刻から夜間にかけての犯行が多くなっている。窃盗は、ある程度人の出入りの多い時間帯に発生するが、強盗、暴

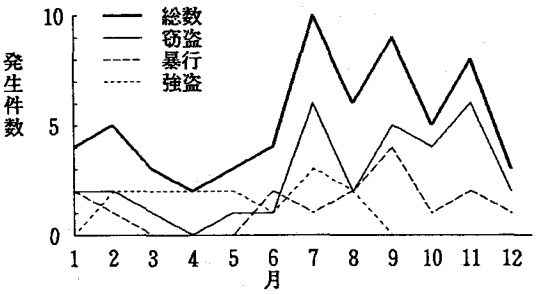


図-1 犯罪別にみた月別発生件数（石川県）

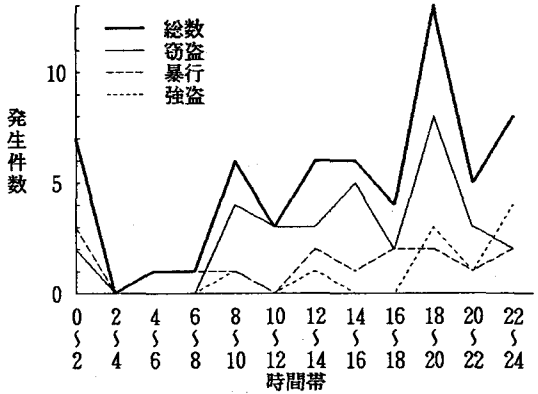


図-2 犯罪別にみた時間帯別発生件数（石川県）

表-1 被害者年齢構成（石川県）

年令	総 数		窃 盗		暴 行		強 盗	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～9歳	0	1	0	0	0	1	0	0
10～19歳	4	8	1	2	0	5	3	1
20～29歳	3	1	0	5	0	6	3	0
30～39歳	2	5	0	4	0	1	2	0
40～49歳	2	4	1	2	0	1	1	1
50～59歳	1	3	1	3	0	0	0	0
60～69歳	0	8	0	6	0	0	0	2
70歳以上	1	6	0	6	0	0	1	0
合計	13	46	3	28	0	14	10	4

行は人の出入りの少なくなる時間帯に発生しやすいと思われる。また、加害者は全員男性であったが、被害者の性別・年齢構成を見ると（表-1）、女性の割合が高く、また、窃盗については女性の高齢者が多く、通りすがりの弱者を狙った犯行が読み取れる。

金沢市内において発生した50件のうち、道路上で発生した48件の街路幅員をみると（表-2）、3～6mの街路に集中している。住区内街路、あるいは繁華街の裏通りでの犯行である。このような道路は歩道のない細街路で、既存市街地においては、不整形な街路が多く、見通しも悪く、監視性の低下の一因となっている。また、マンションの建設などとも関連し、外部からの流入人口が増え、近隣関係が薄れ、領域性の低下を引き起こしている。15m以上の広幅員道路においてもやや件数が多くなっているが、これは、繁華街の表通り、あるいは交通量の比較的多い郊外の幹線道路であり、不特定多数の人の出入りによる監視性の低下、また、夜の繁華街においては、飲酒による自己制御力、防犯意識の低下が要因の一つと考えられる。また、夜間に発生した29件の犯行現場における、犯行時刻の照度をみると（表-3）、ほとんどが20lx以下とす暗い地点である。照明設備の少ない裏通り、空地、郊外の新興住宅地に多く、暗闇、人通りの少なさが監視性を低下させていると思われる。

その他種々の空間特性を調査・分析し、屋外の犯罪発生構造について、都心部住宅地、既存の住宅地、郊外の新興住宅地、繁華街について、それぞれ空間的側面、社会的側面、心理的側面から犯罪発生要因相互の関連を考察した。その一例を図-3、4に示す。

〔参考文献〕伊藤滋編：都市と犯罪，東洋経済新報社，1982，10。

表-2 犯罪発生現場の街路幅員（金沢市）

幅員 (m)	件数
3未満	1
3～6	29
6～9	5
9～12	1
12～15	1
15～18	4
18以上	7
合 計	48

表-3 犯罪発生現場の照度（金沢市）

照度 (lx)	件数
10未満	16
10～20	7
20～30	2
30～40	1
40～50	1
50～100	0
100以上	2
合 計	29

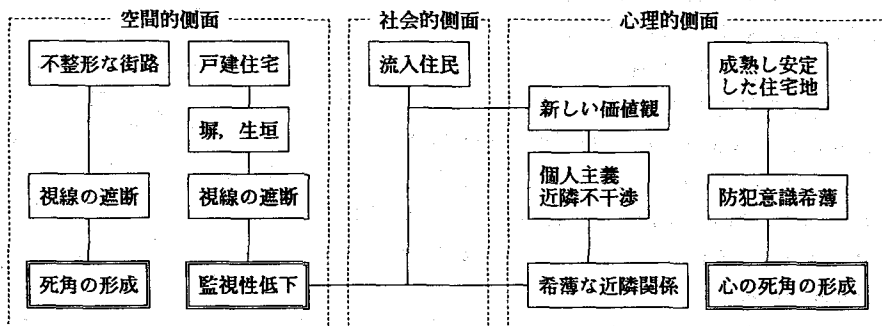


図-3 既存の住宅地における犯罪発生要因関連図

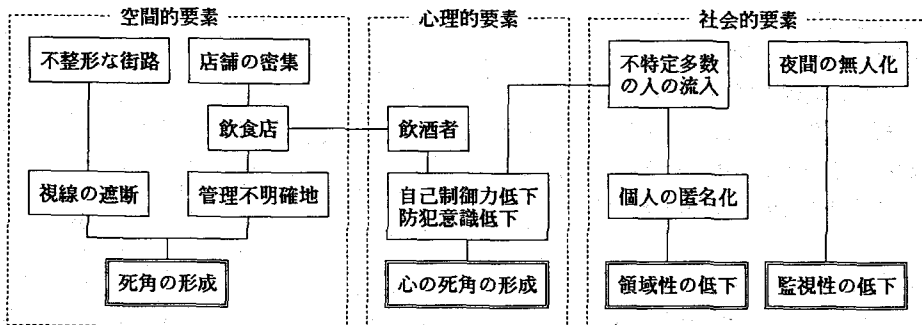


図-4 繁華街における犯罪発生要因関連図